

給水人口や給水量が減少しても、健全かつ安定的に事業運営が可能な水道をめざして。



古国府浄水場中央管理室 市内に点在するポンプ所の運転状況等を24時間監視。

組織体制の強化と人材の育成持続

職員の大量退職や水需要の変動等の事業環境が変化していくなかで、効率的な事業運営を維持するとともに災害や突発的な事故にも迅速に対応できる組織体制を構築している。

また、将来のさまざまな課題に対応していくために、職員の技術力を継続して向上させる必要があることから、平成25年に技術の継承推進会議を設置し、職員間での技術・知識の継承や職員研修を行うことにより、計画的な人材育成に取り組んでいる。



「技術の継承」実技研修

大分川ダムの整備

大分川ダムが完成するまでは、暫定豊水水利権の許可により必要な取水量を確保するとともに、大分川ダムの早期完成やコスト縮減、建設事業の促進のための予算確保等について、所管する国をはじめ関係機関に要望している。

大分川ダムの完成後は、関係機関と連携して水源の水質・水量を安定させることにしている。また、水源水量の有効活用や多様な危機に対処するため、古国府浄水場を主体とした浄水場間のバックアップ体制の構築に取り組んでいる。

水道施設の再構築

老朽化した施設の更新にあたっては、施設利用率をより向上させるため、現況の給水サービスを維持しながら、将来の需要や対応等を踏まえてダウンサイジングや統廃合などの効果的な水道施設の再構築を推進している。

水道施設の適正な維持管理

施設の適正な維持管理を継続することにより、水道施設の事故発生を抑制するとともに、施設の健全度の向上を図っている。

また、施設ごとの使用実態や重要度等を踏まえた更新・延命化計画により、適切な時期に補修・更新を行い、水道水の安定供給の確保に努めている。

水道施設に関する情報化の推進

管路情報や給水台帳等の各種システムの充実と利便性の向上を図っている。また、各施設の維持管理上の情報を共有化して的確に管理するとともに、関係機関との連携を図り、情報の有効活用に努めている。

水道施設等における民間活力の導入

多様化する市民のニーズに対処し、効率的な事業運営を行うため、業務執行方式の見直しを行うとともに、民間事業者へ委託できる業務については業務委託を推進している。

また、民間事業者へ委託を行っている業務については効果の検証を行うとともに、受託業者への管理・指導を適切に行うことで民間委託のメリットを最大限に活用し、サービスの向上と事業運営の効率化をめざしている。

平成元年から修繕工事等について業務委託を開始し、平成5年より検針業務の一部を私人委託、平成14年より全営業所の検針業務を法人に委託した。平成22年から横尾浄水場の、平成25年からえのくま浄水場の運転管理業務を民間委託した。平成29年からは、新たに古国府浄水場運転管理業務の民間委託を実施した。また、平成27年より料金センター関連業務も民間委託している。

20年ぶりの料金改定

平成28年12月に大分市水道事業給水条例を改正し、翌年4月から20年ぶりに水道料金を改定することとなった。水道の使用実態や社会環境の変化に合わせて料金表を見直したもので、基本水量の8㎡から5㎡への縮小と、これに伴う基本料金の引き下げや、大口需要者が地下水利用へ転換する原因の一つとなっていた従量料金の最高単価の引き下げを行う。水道料金の値下げは初めてとなる。また、併せて大口需要者がより水道を使用しやすくなるように特別料金制度の導入も決まった。

水の有効利用の取組

・監視機能の向上

古国府浄水場等の主要な浄水場に導入している監視制御システムをより効率的に運用し、安定した浄水処理とコスト縮減に努めている。

また、配水監視システムの各種データを検証・分析して施設の効率的な運転を行い、漏水などの早期発

見に努め、水融通のための管網整備に役立つ情報管理を行っている。

・漏水防止対策の強化

過去の漏水発生件数、調査実績等をもとに、漏水調査を行うとともに迅速な漏水修理に取り組んでいる。

また、管路の老朽化による漏水発生が増加が予想されるため、老朽管の更新を計画的に実施し漏水の未然防止に努めている。

水道事業経営基盤の強化

・アセットマネジメントの活用

平成26年度から、アセットマネジメントを活用することで、老朽化する施設の延命化や更新の事業費を平準化している。また、より効率性と経済性が高くなるように施設整備計画を見直すとともに、中長期財政計画を策定し、財源確保について検討するなかで将来の財政の健全化を図っている。

・財務基盤の強化

健全経営を堅持するため、水道事業収入の根幹である水道料金の収納強化に引き続き取り組んでいる。

また、水道料金収入の減少が続くと予測されるため、水道料金収入に対する企業債の返済コストの割合を抑制し、将来の負担軽減に努めている。さらに、経営指標を基にした経営診断を行い、経営の改善・効率化に努めている。

窓口サービスの向上

平成18年1月1日より「コンビニ収納」を開始した。併せて、九州管内の郵便局（沖縄県を除く）での水道料金の支払いもできるようになった。平成19年11月より本稼働した電子申請受付システムの利用促進に努めるとともに、インターネットを利用した水道料金の支払い・照会システムやクレジットカードによる料金

支払いなどの新たなサービスの導入について調査・研究を進めている。

また、漏水や水質など水道に関する相談窓口の充実についても調査・研究している。さらに、職員研修の充実や業務改善を推進し、迅速、的確、ていねいなサービスの提供に努めている。

未給水地区への水供給の検討

給水区域内に点在する小規模な未給水地区について、当該地区の給水規模や基幹水道施設からの距離などの地理的条件を勘案するなかで、保健衛生や環境行政、関係行政機関等との連携による多様な供給形態のあり方の検討を進めている。

市民とのコミュニケーションの促進

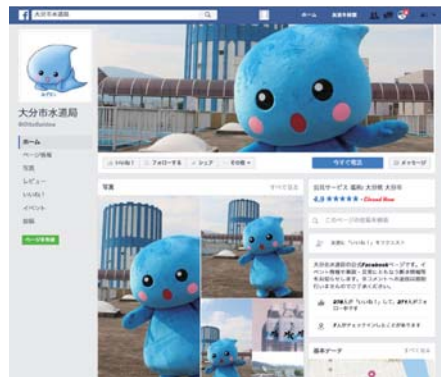
多様化する市民のニーズを的確に把握するため、アンケート調査等を実施するとともに、市民の声を反映した業務の改善やサービスの向上に努めている。

また、広報紙、ホームページ等の内容を充実させ、効果的な情報提供に努めるとともに、水道事業の負担とサービスの関係や、水道事業が直面する課題についてわかりやすく伝えていくことで、市民の理解を深めるよう努めている。

水道サービスの向上と業務の効率化を図るため、様々なシステムを導入。



公式のtwitter及びFacebook



大分市HPより各種申請が可能となった

公式ツイッターと公式フェイスブック

迅速な情報提供を念頭におき、ソーシャルネットワークによる情報提供体制を強化するために、平成24年より大分市水道局公式ツイッターの運用を開始、平成25年より大分市水道局公式フェイスブックの運用を開始した。ツイッターにて発信した情報はフェイスブックに自動連携される。

現在、各課にて水道局に関する事故・災害発生時における断水等の情報提供に加え、大分市水道局の取組やイベント情報など、あらゆる情報を発信し、広報活動の手段として活用している。

自己電算処理による水道料金システムの運用

平成11年5月6日より本稼働開始となり、5月検針6月請求分から「水道料金システム」での業務を行っ

ている。

検針業務においては、それまでの「検針台帳」、「検針カード」による紙ベースでの業務からハンディターミナルでの業務となり、差引水量の自動計算、検針票の自動出力および直近の口座振替情報記載等が可能となった。

調定業務においては、開始・中止情報のオンライン入力および調定処理、納入通知書等の印刷、圧着等の事後処理を水道局独自で行うこととなった。納入通知書等についても両面開きの圧着ハガキを使用している。

この自己電算導入により、市民からの問い合わせ等において迅速かつ、より正確な情報を提供できるようになった。

環境保全対策

・各種エネルギー対策

送水ポンプや大型変圧器などエネルギー消費量の多い機器の新設や更

新に際して、エネルギー効率の高い機器を採用するとともに、電力使用量についても、それぞれの施設における低減目標を設定して削減に努めている。また、小水力発電、太陽光発電等の再生可能エネルギーについて調査・研究を進めている。

・資源の有効活用

浄水処理工程で発生する汚泥について、園芸用土、グラウンド用土などへの有効利用を促進している。

また、施設の建設等に伴い発生するコンクリート、アスファルト、残土などの建設副産物のリサイクルに積極的に取り組み、環境負荷の低減を推進している。



浄化処理工程で発生した汚泥を再生処理

「大分市水道事業経営評価委員会」の設置

大分市水道事業基本計画の目標実現に向けた進行管理を行うとともに、経営全般に関することについて客観性のある評価を行い、事業の円滑かつ適正な推進に寄与することを目的として、平成21年2月より「大分市水道事業経営評価委員会」を設置した。

◆任期：2年

◆委員：10名以内(学識経験者、各種団体代表者、公募委員)

◆開催回数：年4回程度

◆議題：大分市水道事業基本計画、水道事業会計当初予算・決算の概要、事務事業評価(平成27年度より経営診断)、国庫補助事業、水道施設見学 ほか



経営評価委員会(平成28年)



大分市水道事業基本計画～大分市水道事業ビジョン～(平成27年3月策定)

マスコットキャラクター「みずタン」

大分市水道局に対する市民の理解と協力を得ることを目的として、大分市誕生100周年を迎える平成24年度に日本水道協会九州支部総会が大分市で開催されるのに合わせ、「みずタン」をマスコットキャラクターに決定した。

「みずタン」のデザインは、広報紙に使用するイラストとして平成17年に当時の大分大学生に制作してもらったもので、それ以来、水道局が発行する各種広報紙に登場して親しまれている。

「みずタン」の愛称は一般公募を行うとともに、水道局職員からも募集し、応募総数156件(74点)



水道事業のPR活動にも積極的に参加する「みずタン」。

の中から選ばれたもので、広報紙「おおいたの水道」や啓発グッズ、各種チラシ、公用車などに「みずタン」のイラストを掲載し、水道事業のPRや大分市水道局のイメージアップに活用している。

その後、「みずタン」の着ぐるみが完成し、平成26年8月開催の古国府浄水場一般公開イベントでデビュー。以降、各種イベントに

出演し、市民と触れ合う機会を増やすことで水道事業を効果的にPRしている。



水のしずくをイメージしたかわいらしい姿の水の妖精。大分の水のことについて、何でも知っているよ。